

坂出・綾歌支部 活動報告

1 研究主題

生き抜く力を育むメディア教育の在り方
ー学ぶ力の習得を目指してー

2 はじめに

学習指導要領の基本理念である「生きる力」を育むという目標のもと、基礎的・基本的な知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を育むために、アクティブ・ラーニングを取り入れるなどの授業改善を図り、学びの質を高めていくことが不可欠である。特に、多様な情報の中から必要な情報を効率的に選択し、それらをもとに自分の考えや思いを主体的に表現・発信する力を育てることが学校教育に求められている。それはまさにメディア教育の担う役割であり、加速化している高度情報社会において、その役割はますます大きくなっている。

そこで、昨年度に引き続き、メディア機器活用の目的を明確にした授業づくりに重点を置き、メディア機器を使った「学ぶ力」の習得を通して、生徒個々の確かな学力の育成を目指すこととした。生徒たちが自ら「学ぶ力」を育むための「わかる授業」づくりの方策を探り、そのために必要な ICT 機器等は何かを整理しながら、より効果的な質の高い教育実践に繋げていくための「メディア機器活用」の在り方について実践研究を行うため、本主題を設定した。

3 研究計画

(1) 4月18日

場所：坂出市立坂出中学校

内容：研究組織及び研究計画作成

(2) 6月21日

場所：綾川町立綾上中学校

内容：研究授業（美術）、研究討議、各中学校での実践事例についての情報交換

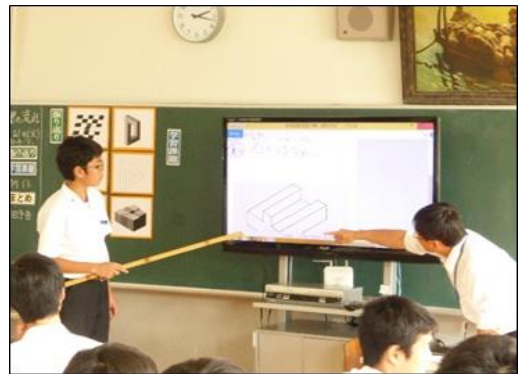
4 研究内容

(1) 研究授業（6月21日）

① 第3学年 美術

題 材：空間表現の不思議

授業者：平田 憲司



【中間報告をする生徒】

② 本時の目標

ア 不可能図形を立体化しようとすることに興味をもつことができる。

イ 他者とアイデアを交流し、奥行きのある角度や配置等の効果を工夫することで不可能図形を立体化する方法を考え出すことができる。

③ 学習指導過程

【導入】

ア 本時の学習課題を確認する。

- ・不可能図形を見せ、立体化することが可能かどうか疑問を投げかけ、本時の学習への関心をもたせる。

【展開】

イ 不可能図形の模写から不合理な空間の原理を考える。

- ・個人の考え方をまとめさせるために等角投影図法の方眼面に立体化するためのアイデアを記入させておく。
- ・構想を柔軟にするために、ワークシートの方眼面にフリーハンドでラフスケッチをさせる。

ウ グループで不可能図形を立体化するためのアイデアを考える。

- ・各自の考えをもとにタブレット PC の画面上にアイデアを書き込ませながら不可能図形を立体で表現する方法をまとめさせる。

エ 中間報告をする。

- ・グループの代表生徒に不可能図形を立体化する方法をタブレット PC の画面上で提示させ、立体化が可能な条件について全体で確認させる。

オ グループで試作品をつくる。

- ・角材やレゴブロック等、制作に必要な材料を用意しておき、適切だと思う材料を選択させる。
- ・立体化することができそうなグループには、タブレット PC で試作品を投影させる。

- ・撮影できたグループに全体で発表させ、本時の課題が達成できたかを確認させる。

【まとめ】

カ 本時のまとめをする。

- ・次時は、発表をヒントにして、グループで協力して立体を完成させることを予告し、意欲の継続、向上を図らせる。



【試作品を作る生徒】

5 今後の課題

タブレット PC は生徒にとって興味・関心が高い教具の一つであり、自分が考えた内容や表現したい図表等を、瞬時に全体と共有することができる便利な道具である。

しかしながら、市町によって導入状況や機種等が異なり、まだまだ授業において身近な教具とは言い難い状況にある。また、授業の中で効率的に使用するためには、教師及び生徒双方が操作方法に習熟するための機会や授業実践の積み重ねが必要である。更に、授業づくりをする教員をサポートする専門家の確保や効果的な活用方法の研究等も重要な検討課題である。